

1. 件名：「国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 高速実験炉原子炉施設（「常陽」）の設置変更許可申請のうち地震等に係る事業者ヒアリング（14）」
2. 日時：令和4年7月11日（月）13時30分～14時35分
3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室
4. 出席者 ※：テレビ会議システムによる出席
原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門
岩田安全管理調査官、江崎企画調査官、三井上席安全審査官、中村主任安全審査官、佐藤主任安全審査官、永井主任安全審査官、大井安全審査専門職、松末技術参与、馬場係員
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 建設部 次長 他6名※
同 大洗研究所 高速実験炉部 部長 他4名※
同 安全・核セキュリティ総括本部 1名※
5. 自動文字起こし結果
別紙のとおり
※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
6. 提出資料
 - ・大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」） 審査会合コメントリスト
 - ・大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」） 敷地周辺・敷地近傍の地質・地質構造、津波評価、火山影響（評価概要およびH T T R 許可後の知見の確認）
 - ・大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」） 敷地周辺・敷地近傍の地質・地質構造
 - ・大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」） 敷地周辺・敷地近傍の地質・地質構造（補足説明資料）

- ・大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」） 津波評価について
- ・大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」） 津波評価について（補足説明資料）
- ・大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」） 火山影響評価について
- ・大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」） 火山影響評価について（補足説明資料）
- ・大洗研究所（南地区）高速実験炉原子炉施設（「常陽」） 耐震重要施設の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価について（解析用地盤物性値及び地下水水位の設定に関するコメント回答）

時間	自動文字起こし結果
0:00:04	J A 建設部、仲西でございます。それでは資料 2 解析用物性値と地下水に関するコメント回答についてご説明させていただきます。
0:00:15	まず 1 ページ目ですが、コメント一覧つけておりまして、3 ページ目によくつけておる、いるところありますが、ナンバー 22、23 というところで、
0:00:28	こちらに対するコメント回答となります。
0:00:32	ナンバー 22 については、
0:00:35	5 月 30 日の 443 回の審査会合で
0:00:40	このコメントでして、解析を地盤物性値について大洗研全体ではなく、常陽周辺の地盤調査データのみを用いて見直すこと。
0:00:49	ナンバー 23 の方は、解析用地下水について評価の基本ケースの設定を、地表面に見直すこと。この 2 点コメントいただいてまして、6 月 6 日に
0:01:01	ヒアリングで方針の方を示させていただきましたが、物性値、確定したのももセットで整理しまして、今回ご説明させていただきます。
0:01:11	4 ページ目目次でございますが、1 ポツということで解析を物性値 2 ポツということで地下水に関するコメント回答となっております。
0:01:21	6 ページ目まず解析用物性値、
0:01:25	の件ですが、こちらについては回答としまして、常陽解析用物性値は
0:01:31	城野の耐震重要施設周辺で実施したボーリング調査から取得した。
0:01:38	地盤物性値を用いて設定することといたします。
0:01:42	7 ページ目、解析用物性値の設定の考え方、
0:01:46	敷地における地質調査にあります。常陽における地盤安定性評価及び施設の耐震評価を行うため重要施設、原子炉及び原子炉附属建物と主冷却建物、こちらは重要施設になりますが、
0:02:01	A - A 周辺のボーリング調査から取得した、地盤物性値を用いて解析を地盤物性値を設定しております。
0:02:08	した調査位置図で示してございますが、
0:02:12	地図の右側、こちらに常陽の対象施設が 2 建屋ございまして、この周辺に調査しております。ボーリング孔、
0:02:24	のうち青の丸で示したものの、これが今回地盤物性値設定に用いたボーリングになります。
0:02:33	この対象施設周辺のボーリング調査に基づいて、データを再設定し直したというのが今回の内容になります。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:43	8 ページ目からが、実際に設定した物性値を記載してございます。
0:02:49	資料の右上に第 382 回審査会合、資料 1 修正とございますが、こちら令和 2 年の 11 月に
0:02:58	行った審査会合でして地盤安定性評価の
0:03:02	前たの資料になりまして、最終的な取りまとめ介護の資料をイメージして策定したものになりますが、こちらの中で地盤物性値を設定してございます。
0:03:14	たところが、してるところありますので、そちらを見直しをかけるという内容になってございます。
0:03:20	8 ページ目は物性値の概念図、設定の概念になりますが、こちら以降が修正になります。
0:03:30	まず 8 ページは概念を示してまして、実際に 9 ページ目からが設定し直した物性値記載してございます。
0:03:37	9 ページ目は、共同関係になりますが、上から運営同日からMSGの地方までの共同定数になります。
0:03:49	10 ページ目以降がそれからさらに下の強度定数が 10 ページ 11 ページと記載してございまして、12 ページ以降が変形特性になります。
0:04:01	こちらについても
0:04:04	並びは一緒でして 12 ページが梅野からMSG 13 ページが、その下の I S S W A N から I S S さん、14 ページ目が解析を物性値最後は、k m 層から A T C 層、
0:04:17	ということで、基本的に H T T R 部の申請時の物性値を抜いて上のみで整理をし直して、数値をエースが設定してるというところになります。
0:04:29	15 ページ目まとめですが、上の耐震重要施設周辺のボーリング調査から取得した物性値を用いて解析用物性値を設定して設定します。
0:04:40	また設定した場における解析地盤物性値を用いて今後、安定性評価及び耐震評価を行うと、まとめてございます。16 ページからが今度解析の地下水に関するコメント回答。
0:04:54	こちらについては 6 月 6 日に説明したヒアリングの内容からは変更ございませんが、
0:05:01	もう一度、簡単にご説明しますと、
0:05:04	解析物性値については、解析を地下水については基本ケース A として、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:11	地表面に設定するという事としております。18 ページがその概念、記載してございまして、解析を、の地下水を地表面に設定するという事でモデルの
0:05:23	地下水の関係を示してございます。
0:05:26	最後 19 ページまとめになります、解析用地下水は観測記録で確認される地下水、東西方向の高低差、集水の状況を踏まえ、地表面に設定すると。
0:05:37	設定した解析値活用を用いて、踏まえ、今後滑り安全率の評価を行うとしてございます。
0:05:45	20 ページからが参考資料になります。
0:05:48	まず (1)、解析用物性値の参考資料が 21 ページからになります。
0:05:54	22 ページ、こちら以降が右上に 382 回の審査会后、資料 1 修正でございまして、こちらについても、
0:06:05	382 回の補足説明資料としてデータ集を載せますのでそのデータを意識、種見直しをかけているというものでございます。
0:06:16	22 ページが物理試験の結果を
0:06:20	第 4 紀の、次に土について記載してございまして、23 ページが、上荘多賀層群の物理試験結果になります。
0:06:29	24 ページから、
0:06:32	30 ページまでがモール円を記載してございまして、各層の強度特性を A B 駆動残留強度を記載してございます。
0:06:44	31 ページは強度特性のゲームソート計装になりますがこちらは震度の
0:06:50	依存性も踏まえてこのような設定となるということで、常陽のみで訂正した物性値を載せてございます。
0:06:59	ここまでは強度定数でして 32 ページからが静的変形特性のデータ。
0:07:06	こちら 3233 と記載してございまして、34 ページからが、動の変形特性の試験結果になります。
0:07:15	こちらについても、試験データと近似曲線を今回用いたものを記載してございまして、42 ページまで、動の変形特性のデータとなります。
0:07:29	43 ページからが、甲斐地下水の観測結果になります。
0:07:35	こちらについては
0:07:37	4445 と記載してございまして、44 ページ、右上に 443 回審査会合、資料修正でございまして、5 月の 3、30 日の審査会合から資料を修正していると。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:51	いうところになります。具体的には解析の地下水位 6.7 というところが、
0:07:56	グラフのところに書いてあったのを削除しているというところと、ポンチ絵もそのような記載がありましたので、それを削除して、地下水の観測データのみの表記、通してございます。
0:08:09	45 ページは注水の観測結果ですがこちらについては前回の審査会後から変更なく再掲としてございます。
0:08:20	資料 2 の説明以上になります。
0:08:23	はいありがとうございました。では規制庁側から確認したい事項等あればお願いします。
0:08:33	規制庁の江寄ですが、7 ページ開いていただいて、この
0:08:38	調査一井図の中で、この青い線ですね、いわゆる、
0:08:42	新たに取得したボーリングデータで、以前、
0:08:48	5 月 30 日とかですね、いただいているパワポだと。
0:08:54	一番実をここ右、1 とした右下 222 ってあるんですよ。
0:08:59	そのボーリングデータと、この松見小の
0:09:03	に近い 98 番。
0:09:06	それと、
0:09:07	逆にですね、上側の方で、113 の横に 121 っていうんですが、この三つが、青井。
0:09:16	前、5 月、
0:09:19	30 日とかですね。
0:09:22	4 月 14 日では、
0:09:24	ちょっと調査位置ということで、
0:09:27	示されていたんですけど、ここを何か抜いた理由繋がるとかそれとも、
0:09:32	記載の、
0:09:34	関係で、たまたま抜けちゃったのか。
0:09:36	素朴な質問ですけども、
0:09:40	説明いただけますでしょうか。
0:09:50	機構タナカです。衛藤説明させていただきます。まず夏美高側の No.98 なんですけれども、こちらの方は申し訳ありません記載のミスということで、修正させていただきました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:04	それから、121校と122校についてなんですけれども、こちらの追加調査としてボーリングをしておりますけれども、解析をメッセージとしては、
0:10:16	使用していないと、いうことを、
0:10:20	ですので、
0:10:22	青丸の地盤物性事業の設定用ボーリングからは、
0:10:26	外すということで、表現を修正して、
0:10:31	おります。以上になります。規制庁江崎です。わかりました。98番というのは、前回はミスだったんで今回の
0:10:40	は正しい。
0:10:41	という説明なんでしょうか。
0:10:45	です。
0:10:50	規制庁矢崎です。122と121は、HTTR等含めて、大洗全体研究所全体で部設置を定めるためには、
0:11:02	121と122は必要であったけども、今回、
0:11:07	上下の量の解析用物性値をまとめる。
0:11:11	ためにはここは、総1個で取得した地盤分、地盤というか、地質は必要ないんで、今回は除外されてるっていうふうに理解しましたが、それでよろしかったでしょうか。
0:11:27	121と122なんですけれども、こちらは
0:11:33	室内試験用のサンプリングを行っていなかったということで、
0:11:37	衛藤間調査の追加ボーリングとして行っているんですけれども、ちょっと解析を物性Gに使っているかという観点で見ると、
0:11:46	サンプルとして使われていないということで、
0:11:50	修正させていただきました。
0:11:52	規制庁の矢崎です。了解、理解できましたありがとうございます。
0:12:07	すいませんナガイですけど、全く同じところ私も確認しようと思っていたんですけども今あった旨は、中に楽器か何かで入れておいていただくのと、あと、
0:12:18	ボーリング、前回のずっと比の比較という意味で、両方載せたいのも1枚参考資料追加でいきますか。
0:12:39	ちょっとナカニシですが、2ページの調査位置図を前回と今回で比較できるような形でということでよろしいでしょうか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:49	規制庁長井ですその通りですそれで参考資料に左に、もともとの図面で右、今回の前みたいな形で、
0:12:56	参考として入れていただきたいというリクエストです。
0:13:04	油井建設の仲西です。了解いたしました。
0:13:14	ナガイですかちょっと、今1枚と言いました場合によってサイズ感を見て見開きでも構わないんで見える大きさを、参考の方に入れていただければと思います。
0:13:27	参考の方というのは前回の調査位置図を参考資料の方で
0:13:34	引っ張れるような形で構成するっていうことでよろしいでしょうか。
0:13:38	反対比較的両方とも入れずに、2枚にする場合両方とも入れてください。
0:13:43	前に1枚にまとめて、参考資料にちょっとください。大きさはそちらで作ってみて、2枚にすべきか1枚で収まるかってのは検討してください。
0:13:55	いたしました。
0:13:59	すいません。規制庁の仲村ですけども、1点だけ、地下水のところ、例えばなんですけども、18ページ。
0:14:12	そこに18ページのところに絵があって、こういうこういう設定にしたってことはそれで全然問題なくていいんですけども、文章のところだけが、
0:14:21	地表面に設定するっていうふうに書いてるんですけども、
0:14:26	ちょっと厳密に言うと、地表面なんだけどもその建屋のところだけ、
0:14:31	建屋の基礎下端とか、なんかそういう言葉とか、太細だとかもそういう書きぶりしてると思うんでちょっとその辺参考にしてもらって、
0:14:41	ちょっと正確に書いてもらったほうがいいかなっていうのが1点です。地表面っていうと建物のところも全部、地表面みたいに読み取れるんで、
0:14:51	ちょっとそこは修正した方がいいかなということです。
0:14:56	建設部仲西です。了解いたしました。
0:15:03	これ、
0:15:04	何これ。
0:15:09	すみません、長井ですけど今の仲間の発言ですがちょっと注意していただきたいのは、例えばでありますけど女川原子力発電所とかはドレーンで後の地下水位を下げるということを、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:20	ちゃんと設置変更許可上約束してるんですけども、もしそういうことが不可能だったら、書き方同じように、もし、
0:15:28	今中村由喜夫に変えるとしたらちょっと注意してくださいでしょ。
0:15:33	あ、規制庁だけですが、ちょっと話題の話あるんですけども、これ。うん。基本的に言うとね、柏崎でもどこでもそう。もともと地下水位低下設備って、
0:15:43	ポンプアップして、立て直しにサブドレンっていう、
0:15:47	ドライを通して吸い上げてますよね。いわゆるよう圧力が、
0:15:53	建屋の原子炉建屋なんかのベースマットにかかると。
0:15:56	非常に設計的に不利な状態になり得るので、地下水を基本的には、
0:16:03	そのサイトに寄って異なりますけども、スラブの中面とか、スラブの定年とかね。
0:16:10	設定して、
0:16:13	するんですよ。ここでは土地が上ではそういうような地下水位低下設備は設けていないので、
0:16:20	基本的には低くなっているわけではないので、
0:16:23	そこがちょっとすぐ終わるかなとは思んですけど、いかがですか。
0:16:35	元建設部の中西ですが、今言われた趣旨を踏まえて文書の方適正に修正をしたいと思います。
0:16:43	上の方では今おっしゃる通りサブドレンとか、という設備を設置してるわけではございませんので、そういうところで
0:16:52	またサイトの
0:16:56	機械の方をちょっと参考にして修正するようになりたいと思う。
0:17:02	規制されるわけです。多分、
0:17:05	計算する時の強度特性作りの強度特性とか、あと動的変形特性。
0:17:11	これは多分、地下水、
0:17:14	深さ造成っていうよりは、いわゆる有効上載圧とかいう工事。
0:17:20	なんかのですね、基本的な
0:17:24	何だろう関数になっているので、基本的に言うと、
0:17:28	うん。
0:17:29	建屋下の、例えば I S S わんでしたっけとか、I、I S S II U というのは京都眼州
0:17:39	これは例えばですね原子炉建屋の 1 のメッシュのものは、その
0:17:43	横にある周辺のもの、多分物性値変わらないと思うんですよ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:47	多分、
0:17:49	だからそうすると、基本的には、計算上の設計上の扱いとしては、
0:17:54	建屋建物の下の方に、
0:17:57	地下水を潜り込んでるんじゃないなくて、解析上は全部地表面一律、
0:18:04	例えば、5、
0:18:08	D0とかですね
0:18:11	あとは今日今日とですね進み安定性の強度は決められてるんだと思うんですが、いかがでしょうか。
0:18:25	J A建設部なんかの施設が、その通りですので今言った趣旨を踏まえて記載の方、見直していきたいと思います。規制庁江崎です。多分ですねこの辺事実誤認してしまうと、
0:18:38	介護ですから、話がかなりややこしいことになると思いますのであまり、
0:18:43	誤解を招かないような記載に、訂正していただければと思います。以上です。
0:18:56	岩田ですけれども、少し、
0:18:59	先ほどから議論があったですねページ7ページの青丸のところなんですけれども、前回までの資料はむしろ追加したボーリングが青丸で示されていて、今回は、
0:19:10	物性値に使ったものが何か青丸になってるんですけれども、これ多分1枚で表現しようとするれば、要は追加したボーリングはこれで、今回物性値に使ったのはこれです。これ使わなかったものについては、
0:19:25	室内試験用のサンプルとってませんでしたみたいな、注釈をつければ1枚で済む気がするんですよ。なので、過去のやつと見比べるっていうのも一つの手かもしれませんけれども1枚で表すということもできるかと思いますのであわせてご検討いただきたいというのが1点と、あと
0:19:42	以前の資料にはですね、地盤の断面図がついてたんですけれども、つまり何を言いたいかというとそのBとかL mとかMUのエスワンとかと言われてもです文字だけが出てくるのでわからないので、
0:19:56	これ地質の断面図を1枚追加していただいた方が、説明性は向上すると思いますのでそれをご検討ください。
0:20:08	了解いたしました。
0:20:14	はい。ここまでの資料については以上になりますので、引き続き資料の1の方のご説明をお願いできますか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:23	資料1-1課からのシリーズについてはですね中身を全部聞きたいということではなくてですね、どちらかというとH T T Rとの差分についてを中心にご説明いただければ、
0:20:35	うちのチームのものみんなもうすでに聞いてますんでですね個別の説明は不要かと思います。
0:20:45	J A建設部、仲西でございますが、それでは資料1の方へ説明させていただきますが、今言った観点でH T T Rとの差分をまとめたのが一番最初の資料になりますので、
0:20:56	そちらをご説明していただきまして、必要に応じて枝番がついてる資料を説明していただくとお会いさせていただく形にしたいと思います。そんな形でやっていただき、個別の資料についてはどこにどう反映されてるかというそういう観点で説明いただければ結構ですのでよろしくをお願いします。
0:21:20	印象機構タナカですそれでは資料1-1に基づいて説明させていただきますと思います。
0:21:25	最初、2ページのところなんですけれども、こちらに常陽の
0:21:30	地震津波等の評価の概要ということで、
0:21:33	まとめてあります。
0:21:36	まず、その地盤のうち、敷地周辺敷地近傍の地質地質構造、
0:21:41	それから津波評価、
0:21:43	火山影響評価につきましては大洗研究所にあるH T T R、同じ敷地ということで、同様の評価として取りまとめております。
0:21:53	このH T T Rなんですけれども、2020年の6月に許可しております、
0:22:00	こちらと同じ評価ということで取りまとめております。
0:22:05	許可されたのが2年前ということですので、
0:22:09	この2年の間に公表された新たな情報を確認しまして、
0:22:13	評価に反映すべき情報があるかどうかという確認を実施しました。
0:22:17	その結果、地震津波については、評価に反映すべき新たな情報はないということを確認しまして、
0:22:24	そのため評価結果に変更はございません。
0:22:28	火山についても、新たな情報を踏まえまして、評価結果に変更はないというふうに確認しております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:36	続いて少し評価、確認内容について次ページ以降にまとめておりますので説明させていただきたいと思います。
0:22:45	3 ページ、目次です。
0:22:48	1 ポツが敷地周辺にポツ津波評価 3 ポツ、火山影響評価ということで、
0:22:54	3 ポツの方は施設側の方から説明させていただきます。まず最初、1 ポツの敷地周辺敷地近傍の地質地質構造、
0:23:02	についての確認結果ということで、
0:23:05	5 ページになります。
0:23:08	こちらの評価概要としまして、敷地周辺敷地近傍の地質地質構造に関する調査の結果、13 断層を震源として考慮する活断層として評価すると。
0:23:19	いう強化の
0:23:21	になっております。
0:23:23	こちらの評価につきましては、
0:23:25	左上にあります通り、地質、地質地質構造の調査から始まりまして、敷地周辺の地質地質構造陸域、
0:23:35	それから海域と敷地周辺の断層の同時活動等それから敷地近傍の地質構造と評価しまして、
0:23:43	こちらの H T T R と同じ評価になっております。
0:23:49	H T T R 許可後の知見の確認結果ですけれども、
0:23:53	事件調査した結果大洗研究所で、震源として考慮する活断層の評価長さ
0:23:59	それから新たな断層に関連するような知見というのはございませんでしたので、
0:24:04	評価に反映すべき新たな情報はないということになります。従いまして、本編説明資料と、
0:24:12	補足説明資料については、
0:24:14	H T T R からの差分はございません。
0:24:18	続いて、津波評価につきましては、7 ページをご覧ください。
0:24:24	こちらの所の津波評価としまして、大洗研究所、H T T R と同様に敷地に津波は到達しないということを確認しております。
0:24:33	評価の方も、H T T R と同様でして、
0:24:37	地震に起因する津波の評価と地震以外に起因する津波の評価。
0:24:42	それから施設への津波の遡上評価と選定した波源の減少。
0:24:47	それから立地上の要因に対する検討と行っていきまして、
0:24:51	こちらの

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:53	内容につきましてはH T T Rとは全く同じ。
0:24:56	というふうになっております。
0:24:58	その結果プレート間地震、茨城県沖から房総沖に想定する津波波源として、
0:25:04	エース影響の規模を評価した結果、敷地に津波は到達しないという結果になってございます。
0:25:10	H T Rとか5の知見の確認なんですけれども、
0:25:15	津波関連する遅延知見としまして地震に起因する津波、海洋プレート内地震と、
0:25:22	それから房総半島沖の巨大地震の波源に関して情報がありまして、
0:25:27	あとそれから行政機関の津波評価ということについても、情報確認しましたのでこちらについて、この津波評価に影響するかという観点で間確認しましたところ、
0:25:38	ここの今までやってきた津波の波源設定や遡上評価に反映すべき新たな情報ではないと。
0:25:44	確認しました。
0:25:46	その将来について少し次ページ以降にまとめております。
0:25:52	まず一つ目の甲斐プレート内地震に関する知見ですけれども、
0:25:57	こちらの尾花江藤 2021 の中で茨城県沖から房総県、すいません、平木県沖から福島県沖の、広範囲に海溝軸を挟んで、
0:26:08	L E R F 後海側の両側に設置したO B S 観測データ。
0:26:12	これは分析しまして、海溝軸より外側のエリアで、プレート内正断層地震が発生エリアというものが示されております。
0:26:21	その中でピンク色で示した範囲が、この論文内で示されている範囲なんですけれども、
0:26:28	こちらに、上から緑色に重ね書いておりますのが、常陽の
0:26:35	対応プレート内地震の評価の波源ということでして、
0:26:40	論文で示されたような範囲を、を超えて、
0:26:44	大洗研究所の近くで、
0:26:46	評価していると。
0:26:48	ということ。
0:26:49	考えましてこちら
0:26:52	知見を新たに反映するような情報ではないということを確認しております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:56	それからアウターライズに関しましては、S A D E を活用した津波即時予測の、
0:27:03	関連研究が進められておりまして、こちら 9 ページ、次のページになりますけれども参考資料として、
0:27:11	記載しております。こちらの件については、
0:27:15	海洋研究開発機構 J A M S T E C と防災科学研究所、それから徳島大学と、
0:27:21	いう研究チームで、アウターライズに関する研究進められてまして、
0:27:27	この中で地下構造探査等から、津波が発生する可能性のある断層として、
0:27:35	潜在断層というマップを作成されてまして、
0:27:39	その断層情報をもとに、津波の解析を行うと。
0:27:44	というような研究が進められていました。この内容については、馬場江藤 2022 まとめられております。
0:27:51	この割と 2020 で、
0:27:53	財務評価やられているんですけども、
0:27:57	この断層モデル設定につきましては、
0:28:03	潜在断層のマッピングられた断層長さ、
0:28:07	それから、
0:28:09	その断層面積を仮定した場合と、
0:28:13	行った場合の、
0:28:15	断層長さとモーメントマグニチュードの関係性、スケーリング則を使いまして、
0:28:20	断層の規模を設定しまして津波評価を、
0:28:24	行くと、それから、様々な、
0:28:27	パラメーターの影響がどの程度あるのか。
0:28:30	というようなことをまとめられておりまして、
0:28:35	その中の分析の中で、スケーリング則というのが少し沿岸の津波高さには大きく影響があって、そのスケーリング則を、
0:28:45	今後もしっかりと確立させていくことが、
0:28:49	この事業とそのためには、より多くのデータを取得することが必要というような指摘になっておりまして、
0:28:54	研究途上ということで今後の研究動向を注視していくというふうに、
0:29:01	考えております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:03	続きまして、
0:29:05	次のページ 10 ページのところに、確認結果、②ということで房総半島沖の巨大地震に関する知見と、
0:29:13	ことで確認結果をまとめてございます。
0:29:16	こちらの千葉県九十九里浜地域で歴史記録にない津波の痕跡が新たに発見されたと。
0:29:22	ということで公表されております。産業技術総合研究所によりますと、津波の再現シミュレーションによってM8 クラスの地震が房総半島で発生したことが明らかになったと。
0:29:34	その防災班相当期に沈むフィリピンかいプレートと太平洋プレートの境界が、津波の波源として注意が必要なんじゃないかということで、
0:29:44	こちらの津波堆積物調査の位置までの浸水域を再現するような波源ということで、
0:29:50	平知久衛藤 2021 で綱 m e の評価が行われていました。
0:29:57	図の方で左の方に書いていますけれども、
0:30:01	こちらの沿岸域の
0:30:02	シミュレーションによって、
0:30:04	求められた沿岸線沿岸の津波高さ、
0:30:08	ということでこちらモデル 10 とモデル 11 というのを抜粋しておりますけれども、
0:30:14	これ大洗研究所常陽のところの津波高さっていうのを、
0:30:20	を見てみますとモデル中で、およそ 5 メートル行かないぐらいモデル 11 で、
0:30:25	読み取りですけれども約 6.4 メートルということ。
0:30:29	ここチラーの評価。
0:30:33	上の津波評価だと、この太平洋プレートとフィリピン甲斐プレートの境界というのを跨いだ領域で、
0:30:40	津波波源を考えておりまして、そちらの
0:30:43	管地震による津波の
0:30:46	評価高さというのが、16.9 メートルと T P + 16.9 メートルで評価しておりますので、
0:30:55	こちらの論文で考えられているような波源を上回るような規模で、すでに評価しているということで、その評価に、
0:31:03	影響を与えないという整理をしております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:06	続きまして、確認結果③次のページですけれども、行政機関による評価に関する知見と、
0:31:13	しまして、こちらの内閣府から、
0:31:17	避難を軸とした総合的な津波対策の検討のため最大クラスの津波波源、
0:31:22	というのが評価されておりまして、
0:31:24	こちらに茨城県沿岸の浸水深分布が示されております。
0:31:30	上の津波評価で参照してます行政機関の評価、茨城県の津波浸水想定というものがございまして、
0:31:37	こちらで茨城県の評価ですと、将来周辺で、
0:31:42	T+9メートルという数字に対しまして、内閣府の方の、
0:31:48	最大クラスの
0:31:50	による津波の浸水高さというのは、
0:31:53	4.8メートルということで、すでに参照している茨城県の評価の方が、
0:31:59	大きいということで、確認結果というのが、その評価には影響しないと。
0:32:04	ということでございます。
0:32:06	津波の方の説明は以上になります。
0:32:11	はい。続きまして3ポツの火山評価の方原子力機構城野前田から説明させていただきます。ページの方は14ページでございますけれども、まず記載内容につきましてはこのページ、東條様の補正時の内容でございます。補正時の内容は平成30年の10月26日に、
0:32:31	補正をしておりますけれども、この時の記載内容につきましては、HTTRの許可内容と全く同じになっております。まとめ資料がこの時点でできておりまして、
0:32:42	HTTRと情報共有して補正にはすでに盛り込んでいるという状況でございますので中道的にはHTTRの既許可と同じと。
0:32:52	いう形になっております。成功のときの評価といたしまして、下、影響評価すべき火山事象としては降下火砕物でありまして、降下火砕物の設計上考慮する総額は50センチ、密度1.5グラムパーシーシーとしたし立方センチメートルとしたと。
0:33:10	ということになります。HTTRの許可から現在の知見を確認した結果が15ページにまとめております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:20	まず立地評価につきましてですけれども、評価の基軸に使用する火山のデータベースにつきまして最新知見及び見直しに伴いまして都度情報が更新されている中野ほか 2013 のW e b 版の更新内容を、
0:33:33	確認しております。その結果ですねデータベースの更新等の中野ほか 2013 の更新に伴いまして、勝っし及び西から須川が第 4 紀火山として新たに追加をされております。
0:33:49	個別文献調査を実施しまして、階段ダイアグラムを作成していずれも施設に影響のない火山と評価をしております。
0:33:58	また平田カルデラがですね、もともと H T R の許可でも施設に影響ない方と表示しておりましたけれどもこれが第 4 紀火山から除外をされたと。
0:34:10	いうところになります。
0:34:14	あともう一つ中野ほか 2013 のW e b 版においてはですね、火山名とか、最新の活動年代が変更更新されているため、これについても内容を評価に反映しているということになります。
0:34:27	最終的に前のページ見せてお示したような
0:34:32	火山の立地評価におけるスクリーニングですね、こちらの方の結果として抽出される方は 12 火山でこれについては全く変更が生じなくですね、
0:34:42	設計 V A I O 不可能な火山事象が施設影響を及ぼす可能性はないと判断しております、最終的な結果というか評価すべき、抽出された火山自体は 12 火山ということで変更は生じないというのを確認しております。
0:34:56	もう一つ、降下火砕物の影響評価につきまして下の方になりますけれども、追加ボーリング調査はご存知の通り敷地内常用周辺で、
0:35:06	やれ、やっておるためですね、その中から
0:35:11	データが確認できるものについて、赤城鹿沼テフラが情報を追加しているということです。近年のボーリング結果のうち 2 地点で確認された赤城鹿島テフラがですね企業調査結果にて敷地内で確認されている。
0:35:27	テフラの層厚 25 から 35 センチと整合する結果であったと、いうことでございました。
0:35:34	これーを踏まえてもですね H T T R の許可で設定した設計上考慮する降下火砕物の層厚 50 センチというものには変更が生じないことを確認しております。
0:35:46	詳細につきましてはですね、資料 1-4-2 ということで、こちらもともとですね、全般の評価を資料 1-4-1 として、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:56	火山の影響評価という形で説明をしておりますしてその補足資料として資料の1-4-2というものを、従来付けておりました。
0:36:06	こちらをめぐっていただき、1、資料1-4-2を1枚めぐっていただきますと、目次の方が記載されておりますけれども、ここに4ポツ、H T T R許可後の地形の確認ということで37ページ以降に、
0:36:21	現、先ほどご説明した内容についての評価結果をまとめております。37ページの方をめぐっていただきますと、
0:36:33	何かタイトルがございましてその次にめぐっていただきますと38ページに目次ですね、内容としましては追加情報に関わるひとしきりの
0:36:46	情報という形になります。1000めぐっていただきましてまず最初40ページでございましてけれども、先ほどのご説明したようにデータベースの更新に伴いましてこのスクリーニングの数が
0:37:01	対象火山が、追加が二つに火山、
0:37:05	えさ場が1火山ということで最終的に右の赤枠内で、1 T T Rからの変更点をまとめております。
0:37:14	めぐっていただきまして、42ページの方は160キロ範囲内の第4紀火山ということでそのバックデータとして記載をしております。
0:37:26	めぐっていただきまして43ページですね、名称変更も含めて変更点赤字の方で修正をして、追記をしてあるという形になります。
0:37:39	44ページ見ていただきますと、火山の追加名称の変更ですね、をしておるといところで先ほど述べた通りでございます。
0:37:50	もう一つ、45ページの方ですね、こちらの将来の活動可能性が否定的な課題の抽出結果ということですがけれども、一部、活動年代春名さんですね。
0:38:02	が変わっている西から須川追加でございます。
0:38:07	46ページにつきましてはそれを図示したものでございます。
0:38:13	47からが二つ、追加になった、
0:38:22	あいらんダイアグラム述べておまして、
0:38:30	勝と阿藤島へつりカルデラ群、ですねあともう一つ、追加ナカニシから須川のものをつけております新規追加しております。
0:38:42	最後、4、最後ではないですすみません4ポツ3で個別評価となっておりますけれども、こちらは新たな火山抽出結果に基づいても全く
0:38:54	結果としては変わらないということを確認したという内容になっております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:59	最後投与施設に及ぼす方の火山事象の抽出及びその評価ということで4ポツ4ですけれども、55ページ行っていただきまして、
0:39:09	ここはもう変わらずに降下火砕物のみであるということです。56ページにつきましては、最終的にシミュレーション等を踏まえて評価をしたという形で、
0:39:22	総合的に判断して50センチというところも変わりはないという形になります。
0:39:27	追加情報といたしまして57ページに先ほどボーリングの追加ということで、
0:39:35	データが拡充されている部分についても入れてございます。左のところに地図がありましてちょっとちっちゃくて申し訳ないんですけれども、
0:39:45	112番の方と113方について、データがございまして、一部、
0:39:55	ボーリング結果ですね、とってありますけれども、堆積厚さについては12、112の方で27センチ、113につきましては試掘でちょっと散乱しているので、
0:40:08	堆積厚さとしては確認できてありませんけれども、
0:40:12	赤城鹿沼テフラを確認しているというところですねテフラ分析結果も赤城鹿沼テフラであろうということで確認がとれているところがございます。
0:40:23	あとは
0:40:26	最後59ページになりますけれども密度関係の方は新しい文献等ございませんでしたので結果的に変更がないということで湿潤密度として参っ、5グラムパー立法センチメートルを採用するというのは変わらずという形になります。
0:40:45	最後60ページですけれども、
0:40:49	こちらの方も、降下火砕物以外の火山事象ですけれども影響ないということで結果は61ページにまとまっております。ですので降下火砕物で、50先ほど言った50センチ周溝1.5ということをもとめたのが、
0:41:06	最終的に63ページというふうになっておりまして、結果的に設計側の方に渡す条件といたしまして層厚50センチで湿潤密度1.5グラムパー立法設置メートルで、降下火砕物のみを
0:41:20	考慮すればいいというところは、HTTRの結論と変わらないと。
0:41:24	ということでこちらの方資料を追加しております。説明は以上になります。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:29	はいありがとうございました。規制庁側から確認事項等あればお願いします。
0:41:36	規制庁長井ですが各分野の、まず概観的に確認をさせてください。
0:41:42	まず周辺に関しては、許可前にいくつか新知見を反映していただきましたけどもそれ以降はないという理解で、
0:41:53	確認しました。こちらについては、
0:41:57	等へHTIと同じものということで理解しました。
0:42:03	津波評価に関してなんですけども、
0:42:06	それぞれのところの内容という意味とあと
0:42:12	御社の今後の姿勢っていうところで確認をしたいんですが、
0:42:20	この概要資料1-1の、
0:42:23	9ページの話の中で、
0:42:27	上の四角枠の最後の行の通りというふうに理解するんですけども、アウトライズ津波の件に関しては、最後のところにあるように緊急東条だって今後、
0:42:39	確認をしていくという理解で、現段階で、強く反映するような情報はないというふうにとりましたそれでよろしいですか。
0:42:51	その通りでございます。
0:42:56	はい、わかりましたともう1件はこれで
0:43:00	その次の10ページの、これうちの技術情報検討会でもかかった知った文献ですけども、
0:43:06	これに関しては比較のところはこれプレート間と比較して十分だからという。
0:43:15	ところの説明でいいというところがいいですね。
0:43:22	その通りでございます。
0:43:25	もう1件これ直接、会合ではJAから説明を受けてないですが、代表して日本原電NEAT。
0:43:32	ということで説明をしていただいたところで、
0:43:35	この津波堆積物って、1分類1行程度ですけど説明を受けてるんですけども、
0:43:42	それでその資料、今日の資料でも、
0:43:46	同じものを再掲するという形でいただけてますが
0:43:51	それでいいんですかね、具体の場所は。
0:43:54	市野。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:56	3-2 の、
0:43:57	20 ページ。
0:44:03	これ現在説明していただいた資料をそちら下、再掲集と理解しています この 2 ポツ目の、
0:44:09	話っているのは同じ津波堆積物だと、我々技術情報検討会までの検討で 確認してるんですけども、
0:44:17	それで、
0:44:18	いいということを確認されていますかね。
0:45:14	すみません。今回まとめさせていただいた、
0:45:19	3号創業研究所で発見したと言っている津波堆積物、
0:45:26	がこちらの
0:45:30	今示していただきました参考資料の方の 24 ページ以降の、
0:45:36	砕石物と同じものであるかというご質問でしょうか。
0:45:40	ページ。
0:45:42	20 ページの上の四角囲みの中の 2 ポツで、
0:45:49	というのが津波シミュレーションをもとになった津波堆積物での、こう いう学会発表か何だったかなかったというふうにこっちは確認とってる んですけども、
0:46:01	その確認とっていらっしゃいますかということです。
0:46:12	確認、
0:46:14	取っておりませんけれども、
0:46:16	衛藤庁舎のぴら地ピラー地区、
0:46:19	という方の、引き続きの、
0:46:23	研究ということ。
0:46:25	だと思います。
0:46:29	すみませんその点はですね、審査会合で改めて確認をとっていただい て、これと、概要資料の説明をひもづける必要があるというふうにお考 えと紐づけていただけますか。
0:46:50	よろしいですか。
0:46:51	多分マイク入れたところで音が入ってこないのちょっと時間をおいて から行っていただきたいんですけども。
0:46:57	はい。失礼しました。承知いたしました。
0:47:01	はい。よろしく申し上げますで最後ことは、ちょっと御社の意思を確認 したいところなんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:08	火山影響評価に関しては、
0:47:10	結果には影響はないということでしたが、1-4-1の説明を見ると、
0:47:17	この新知見は、
0:47:19	現在の説明には反映されないというふうに、
0:47:23	資料だけを見ると読み取れるんですけども、
0:47:26	そのようなお考えですかというのは、1-4-2の補足説明資料に、この
0:47:33	仲野ほか2013の更新について書かれてるんですけども、本資料である1-4-1の該当箇所でも何も触れていないので、
0:47:41	どういうITなのかなということを確認させていただきたいんですけども。
0:47:46	はい。常陽のマエダでございます。こちらの方はですねまず申請書の内容が現段階では、
0:47:55	資料1-4-1、後はこの資料1-4-2の補足の3までの内容ということで、その形でまとめさせていただいているということそして、
0:48:06	審査、申請時補正時からですね、審査が最終的にちょっと時間がかかっているのもあってその間に出てきた新知見につきましては、
0:48:17	バックチェック的な位置付けで、今回4ポツとして、補足資料の中に入れていた高瀬だと、そういう考えでございます。
0:48:32	規制庁ナガイです。という、
0:48:35	お考えは、つまり今後、以前からあるんですけども、補正する際はこれは強い知見は補正には、ちゃんと
0:48:44	記載をするという、
0:48:47	理解です。よろしいですか。
0:48:51	はいそこはちょっとご相談なのかなと思っていた次第でございます。少なくともまとめ資料の方には間違いなくこの内容については入れるつもりはございますが、
0:49:03	その要は溶け込ませるかどうかは先ほどとりあえず機構のスタンスとしては述べさせていただいたんですけども、
0:49:13	溶け込ませて補正すべきであるというご指示であればそうさせていただこうかなと思っております。
0:49:22	そこは御社のスカンスタンスも大事なんですけども新知見をちゃんと補正に取り入れて、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:28	変えていくという姿勢があるのかそれとも新知見が出て、現段階で申請された内容のままいくのかというのは、御社が判断することなのですが、いずれのスタートといたしますか。
0:49:43	はい。
0:49:46	補正補正ですね、溶け込ませて
0:49:51	まとめ資料として溶け込ませて補正の内容には反映するという方向でお願いいたします。
0:50:02	はい。わかりましたじゃそのような方向であれば、もう現段階で、今、
0:50:10	出されて申請書の内容で説明というよりは、今後どうされるかの説明の方が大事なので、4ポツの内容はですねちゃんと本資料に、
0:50:21	反映させていただいて修正をしていただきたいんですけども。
0:50:25	そのような形で御社の意向として間違いのないからその辺システムお願いしたいんですけども、
0:50:33	はい、承知しました。
0:50:36	はい。衛藤でその際ですね今の補足の4ポツにあたる内容は、
0:50:43	どこが修正されたかと。
0:50:46	申請以降の変更内容という形の章に変えていただいて何が変わっているかという説明の、
0:50:52	パートにさせていただければと思いますので、それによって今の説明、
0:50:57	に従えば、
0:51:00	評価対象火山から変更がないということなんでそこに関しては、補足説明書にわざわざ入れる必要性はないので、地域企業意見の火山数はこのように変わりました理由はどういうところですかという説明を、
0:51:15	補足資料の4ポツに該当するところは構成していただきたいと思いますが、対応可能でしょうか。
0:51:21	はい。すみませんちょっと確認なんですけれども、
0:51:26	完全に溶け込ませるのではなくて申請以降の新知見ということで、ころっとまとまった立地評価の、いわゆる最初の
0:51:39	スクリーニングのところの部分の
0:51:45	部分にポロッと
0:51:48	差分を、
0:51:49	を説明するような構成でいいということですかね。
0:51:54	今の補足の内容の本資料はちゃんとす、一通り流れるように、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:59	してください。今の資料で差し替えるべきところは、補足資料の、今補足に入っているものを、本資料に差し替えると。
0:52:07	いう形をとっていただきたいということなんですけども、承知しましたわかりました完全まず1-4-1、本資料に溶け込ませた上で、
0:52:20	申請後の
0:52:22	最新知見で差分がここですよねというのをわかるような、パートを作って入れておけばいいというそういうご理解でよろしいですかね。
0:52:43	規制庁の長井です。基本的には1-4-1の方は溶け込ませていただいて構わないです。
0:52:51	で今、4ポツの方だと結局のところ変更がない箇所の説明も入っちゃっているのですこは抜いても構わないんじゃないかと。
0:53:02	ということですが、
0:53:04	はい。
0:53:05	承知しました。対応可能です。具体的に言うと5456。
0:53:13	そうですね。そういうものは抜いてしまっても構わないかなと思ってます。
0:53:18	はい、承知しました。さらにですね今のお話で溶け込みとかで来、
0:53:23	もう一つ、こんな時代を通じたいというのであれば例えば右上に、申請後の新知見を踏まえて変更とかそういうのを、
0:53:30	入れておけばいいんじゃないですかこれはあくまでアドバイスですけども、
0:53:34	はい
0:53:36	溶け込ませた場合につきましてはこの資料でもあるように右下の赤枠とか、
0:53:43	ちょっと注記を書いておいて、私も図説明する時に混乱してしまうので、双方わかりやすい形で記載はさせていただく予定です。
0:53:55	はい資料構成については今のようにお願いしますが、実際の会合での説明にあたっては、例えば補足がのす資料で説明してこれは本資料反映されてますとか、そういう説明でも構わないのでそちらが、
0:54:07	実際の説明の仕方についてはお任せし、したいと思います。それでよろしいですか。
0:54:13	はい。承知しました。
0:54:17	はい。まず大きいところは私から以上ですけど他に細かいところとか確認したいところは他の審査官から。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:24	お願いします。
0:54:29	はい規制庁の岩田ですけれども
0:54:31	資料への反映という観点ではですね津波のところの内郭についてはですねこれ国の知見なので、行政機関との比較はすべきだと思うんですね。今の津波の資料の中の、
0:54:43	これ何番だろう。
0:54:45	すいませんちょっと。
0:54:47	番号が出てこないんですが、
0:54:52	1-3-1かな。
0:54:55	1-3-1の62ページのところから行政機関による既往評価との比較と書いてあって、今は茨城県との比較しか載ってないんですけども、これには内閣府を追加するということが必要じゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。
0:55:21	減少機構の田仲です。こちら一旦、茨城県、
0:55:26	と比較しまして茨城県の方が大きいというふうに、
0:55:30	考えておりますが、
0:55:32	衛藤、その場合でも何か工夫が必要とお考えでしょうか。
0:55:37	ごめんなさい本資料の中でどういう取り扱いをするかなんですけれども最終的に茨城県と比較しますというストーリーでもいいのかもしれませんが、内閣が出てこないということがまずは問題じゃないかと思ってます。
0:55:49	それ補足ではなくて本資料の中での比較が必要なんですってということなんですけど。
0:55:57	承知しました。内閣府について本資料に含めるという形で考えたいと思います。
0:56:10	規制庁の仲村です。さっきの資料でちょっと教えてもらいたい、確認したいところなんですけどまず8ページですね。
0:56:20	津波のところの海洋プレート内のところですけども、ちょっとさ、私、
0:56:26	聞き漏らしたかもしれないんですけども、この基本的に、
0:56:31	黄緑で、その上の絵のところですね、へのところで、緑で囲った四角で設定してて、
0:56:39	それが、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:41	ピンクのエリアを超えて設定されていることを確認したって言われてるんですけどこのピンクってこう上が切れちゃってるじゃないですか。それはあれですか。
0:56:52	敷地に近かってことし近くて設定してるっていうことを言いたかったってことですか。
0:57:00	まずそこを教えてください。
0:57:06	はい。原子炉機構の田中です。
0:57:09	こちらで言いたかったことは、
0:57:13	所で考えている、波源位置の位置の不確かさの、
0:57:19	領域がピンクの領域よりも、広くとらえて設定できていると。
0:57:26	いうことで、
0:57:28	仮にこのピンク色の領域がもっと南側の方まで広がっていて、上の方の設定がそれーをそのカバーできていないというか、
0:57:41	オーバーできていないというようなことではないということが説明したいということでございます。
0:57:48	ちょっと理解しがたいんですけど、まず、広さっていうと上が
0:57:56	の図、図の、
0:57:58	示してる。
0:58:02	図の大きさのっていうのが切れてるところの、
0:58:05	影響でこう入れて、広さっていうのが、上の方はどこまで続いているかわかんないってところで、広さっていうのはちょっとどうなのかなと思うんですけど。
0:58:16	今で言うと、
0:58:18	やっぱり大洗に近いところに見緑があるってことですか。ごめんなさい、繰り返しになりますけど、考え方だけ教えてください。
0:58:29	失礼しました。江藤そその通りでございます。綱meの波源が近ければ近いほど、影響が大きいという評価、結果は出ていまして、
0:58:39	そういう
0:58:43	距離関係近いものを考える。
0:58:45	ことができているということでございます。
0:58:48	わかりましたそうすると何か、下の青の箱の、
0:58:52	文章とかも何かちょっと違うのかなと思って、趣旨、
0:58:56	J Aさんが言ってるのと、言葉の

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:00	表現が違ってるとかなと思うんでちょっとそこは考えてください。後1点はこれ、日本語の話ですけど、
0:59:08	上の箱のところで、
0:59:10	右から、
0:59:12	2番、右の方の上から2行目のところですけども、発生エリアや、
0:59:20	から100キロ程度って書かれてるんですけどこれも日本語ですけど、これ100キロ程度以下のことですかね。そしたらちょっとあの、
0:59:29	書き方としてどうかなと思ったんですけども。
0:59:39	聞き方の方、修正させていただきます。
0:59:43	はい。100キロ程度以下ってちゃんと書いた方がいいかなということですね。
0:59:48	すいません。もう1点は、9ページのところなんですけども、
0:59:52	これちょっと教えてもらいたいですけど今基本的には、
0:59:56	この文献っていうのは、研究途上であることから今後の研究動向を注視していくっていうふうに書かれてはいるんですけども、
1:00:05	その
1:00:06	今、ぜひ例えば左の下の方に図が書かれたりしてるんですけど、これって、もしこれが、
1:00:15	これで検討するようになったときに、さっきの
1:00:19	前のページの緑のところであウターライズ検討してるのであれば、影響してくるもんなんですか、何かしないのかなと思ってんですけどこれはちょっと参考に教えてください。
1:00:35	以上機構タナカです。こちらの断層マップは、敷地から距離が離れていることでこちらで断層を考えても、敷地には影響しないと。
1:00:46	してこないというふうに考えております。
1:00:52	はい。とりあえず私書き教えてもらって、かかったところは以上です。
1:01:04	他にありますか。
1:01:06	いいですか。
1:01:07	はい、じゃあですねこちらから確認したかったことは以上なので、JA側から何かありますか。
1:01:28	テイカの方から特にございません。
1:01:31	はいわかりました。そうしましたらですねこれはもう審査会合にかけたいと思うんですが、今の予定だと7月22日の午後ですね。
1:01:43	を予定しております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:53	本日少しですね資料の修正をお願いしたと思うんですが、ちょっとお休みもあるんですね、14日の木曜日ぐらいまでに資料って修正できますか。
1:02:12	主に火山だと思うんですけども、対応いたします。
1:02:20	はい。よろしく願いいたします。そうすると説明時間はどのそれぞれどのぐらい必要でしょうか。
1:02:37	その先に常用なんですけれども、火山の北條様の方で説明担当させていただきますが20分ぐらいを、今日と同じぐらい。
1:02:47	もう少しスムーズにというそういう感じでお願いしたいと思ってます。
1:02:56	建設のナカニシですが、しまず敷地周辺の地質構造と津波関係で15分程度。
1:03:06	考えてまして、あと資料2の地盤安定性評価の方も、
1:03:12	10分程度と考えてます。
1:03:16	はい大体わかりましたそうしたら資料1がですね合わせて30分という少しちょっと流そうなので、なるべく羽田のところはコンパクトにしゃべっていただければと思います。
1:03:27	あと資料については10分ぐらいということで承知しました。その予定でですね進めたいと思いますが、資料番号その他についてまた事務的にですね、ご連絡をさせていただきます。
1:03:38	私の方からは以上ですが、ほかに何かありますか。
1:03:47	長から大丈夫です。
1:03:50	経営建設部、大丈夫です。
1:03:54	はい、大丈夫です。はい。そうしましたら以上でですね本日のヒアリングを終了したいと思います。お疲れ様でしたありがとうございました。
1:04:03	ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。